

◆団体基本情報

No.	7	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人仙台市医療センター		
所在地	〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷五丁目22-1						
電話番号	022-252-1111		FAX番号	022-252-0454		所管 部局	健康福祉局 医療政策課
団体ホームページ	https://www.openhp.or.jp/						
代表者職氏名	理事長 亀山 元信			設立年月日		昭和49年12月5日	
基本財産等		10,000 千円		市の出捐額（割合）		6,000 千円 （ 60.0 %）	
設立 目的	仙台市及びその周辺の地域住民の公衆衛生の向上と包括医療の推進を図り、もって住民の健康と福祉の増進に寄与すること。						
事業 概要	公衆衛生に関する指導相談事業。医学及び医療の向上に関する調査研究。オープンシステム病院、診療所及び介護老人保健施設の開設による公益的医業。生活習慣病の検診事業。介護保険法による各種サービス事業。その他この法人の目的達成に必要な事業。 （公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律別表（第2条関係）第4号、第6号の公益目的事業に該当）						
評価対象決算期		令和7年4月1日～令和8年3月31日					

◆人員等の状況

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①常勤役員数	2 人	2 人	2 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
②常勤役員平均年齢	75.0 歳	76.0 歳	77.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	6,433 千円	6,492 千円	6,514 千円
④職員数	795 人	812 人	847 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	4 人	3 人	3 人
⑤職員平均年齢	42.1 歳	41.4 歳	41.5 歳
⑥職員平均年間給与	5,798 千円	5,884 千円	5,819 千円

◆主要財務データ

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①当期経常増減額	15,906 千円	△ 115,767 千円	△ 191,681 千円
②当期経常外増減額	△ 669 千円	190 千円	△ 171 千円
③当期一般正味財産増減額	15,237 千円	△ 115,577 千円	△ 191,853 千円
④一般正味財産期末残高	4,060,293 千円	3,944,715 千円	3,752,863 千円
⑤指定正味財産期末残高	2,874,434 千円	2,726,886 千円	2,613,168 千円
⑥正味財産期末残高	6,934,727 千円	6,671,602 千円	6,366,031 千円
⑦長期借入金残高	7,343,700 千円	6,806,300 千円	6,268,900 千円

◆市の財政的関与

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①市からの補助金	766,331 千円	757,749 千円	764,383 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	26,019 千円	7,143 千円	16,719 千円
③市に対する収入依存度	6.93 %	6.63 %	6.55 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和7年度事業費
仙台オープン病院	オープンシステム（開放型病院）による登録医との共同診療（地域医療支援病院）。人間ドックや脳検診等，市町村・事業所を対象とした大腸がん検診を実施。（人間ドック・健診施設機能評価認定） 広域仙台圏救急医療システムのコントロールタワーとして二次救急を中心とした救急事業（365日24時間対応）。管理型研修指定病院としての研修医受入れ。地域医療推進事業（市民医学講座・地域健康講座の開催，健康教育パンフレット発行）。看護学生に対する就学資金貸付事業。	11,070,629 千円
茂庭台診療所	内科・小児科の外来診療	23,508 千円
茂庭台豊齢ホーム	介護保険制度の施設入所の他，短期入所療養介護，通所リハビリテーション，通所介護，訪問リハビリテーションを実施	958,990 千円
居宅支援センター豊齢	介護保険制度の居宅介護支援事業所としてケアプラン作成等ケアマネジメントの展開を実施	8,598 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	【病院】基本方針である急性期医療，救急医療，健診事業を積極的に展開してきた。患者数については前年度実績を上回ったものの，目標値には到達しなかった。一方，入院診療単価は令和3年度以降7万円を超える水準を維持しており，外来診療単価についても年々増加している。また，年末年始には初期救急臨時外来を開設し，救急医療体制の強化を図った。救急車受け入れ台数の年度目標を4,000台として取り組んだ結果，実績は4,073台となり，目標を上回ることができた。これに伴い，救急受診者数も増加した。 【茂庭】在宅医療・医療と介護の連携推進へ向けて，当施設の3事業が連携し，利用者の自立支援を軸に事業を展開した。太白地区以外にも，青葉東在宅ケア連絡会との合同研修会を実施するなど，各地域の関係機関との連携を強めたほか，当施設の強みである認知症介護やリハビリテーション，栄養管理等について機関誌等に掲載し，市民センター，各町内会等に配布した。また，地域包括支援センター等に，リハスタッフ・管理栄養士・介護福祉士等専門職の講師を派遣し，市民の介護知識等の普及，向上に努めた。	仙台オープン病院では，高齢化の進展に伴い社会的に需要の高い消化器，循環器，呼吸器の専門医療をさらに強化しながら，二次救急医療機関として年間4,000件を超える救急車搬送患者を受け入れている。また，令和7年度は，市の年末年始初期救急医療の逼迫を踏まえ，市と連携により臨時外来を設置するなど，本市救急医療への貢献は大変評価できる。 茂庭台豊齢ホームにおいては，医療・介護連携での強みを活かし，利用者の自立支援を軸に地域住民の健康と福祉の増進に寄与できたことは評価できる。

2. 業務・組織管理	【病院】令和6年4月から開始された医師の働き方改革への対応を含め、医師の確保に努めてきた。その結果、臨床研修医の募集においては多くの応募があり、募集定員6名に対してフルマッチを達成することができた。 また、急性期医療および救急医療を継続的に提供していくため、看護師をはじめとする医療人材の確保にも積極的に取り組んだ。今後は少子高齢化や労働力人口の減少により、人材確保が病院運営における重要な課題となることが予想される。そのため、業務内容の見直しや働きやすい職場環境づくり、組織的な取り組みを継続しながら、必要な人材の確保と定着に努めていく。 【茂庭】令和5年～7年を計画期間とする第4期中期経営計画に基づき、利用者確保に向けた医療機関等への営業、機関誌を通し当施設の情報提供を行った。また、リハビリ等の強化による在宅復帰の推進により、超強化型老健施設の算定要件を通年で満たすことができた。令和7年8月より、大規模改修工事に着手し、利用者のサービスの質の向上と、職員の働きやすい職場環境の確立に向け、工事を進めている。	仙台オープン病院においては、働き方改革や生産年齢人口の減少に伴い医療人材の確保が困難な状況の中、臨床研修医や看護師をはじめとした医療スタッフの人材確保を積極的に行っている点は、評価できる。引き続き、安全な医療提供のための人材確保並びに人材育成に取り組まれない。 茂庭台豊齢ホームにおいては、介護人材の確保が難しい状況の中、中期経営計画に基づき、各種取り組みにより入所者数が増加したことは評価できる。引き続き、超強化型老健施設の算定要件の維持と利用者の確保に取り組まれない。
3. 財務状況	【病院】前年度と比較して、入院患者数および外来患者数はともに増加し、医業収益は前年を上回った。一方で、医業費用も増加したことから、結果として増収減益となった。費用面では、人件費の上昇や物価高騰の影響により、医薬品費、診療材料費、光熱水費、委託費が増加したほか、医療機器の更新・購入費用や施設・設備の維持管理に係る支出も増加し、厳しい経営状況となった。今後も人件費や各種物価の上昇に伴う費用増加が見込まれることから、入院・外来患者の確保や診療単価の向上などによる収益の確保を図るとともに、業務の効率化や経費の適正化を推進し、費用削減にも継続して取り組んでいく。 【茂庭】新型コロナウイルス等の感染症が発生したが、感染管理の下、一定の稼働率は維持できた。また、市内でも高齢化率が高い地域の中で、診療所の外来者数を増やすことができた。	仙台オープン病院については、入院患者や外来患者の増加等により増収となっているが、物価高騰等の影響により、医業費用が増加したため、増収減益となり、2年連続で当期経常増減額がマイナスとなっている。救急患者や紹介患者の積極的な受け入れによる収入増に努めるとともに、材料費の共同購入の推進などにより費用削減に取り組み、経営改善を図られたい。 茂庭台豊齢ホームについては、入所者数の増加等により当期経常増減額がプラスであった点は評価できる。引き続き感染症対策を徹底しながら、利用者確保に努め自立的な経営に取り組まれたい。

4. 今後の方向性及び課題	【病院】物価高騰や施設・設備の更新等により、令和8年度においても費用の増加が見込まれるが、診療報酬改定の内容を的確に分析するとともに、経営企画室を中心とした収益分析を行い、収益の確保・増加に取り組む。また、病院全体でコスト意識を共有しながら、引き続き費用削減を推進し、健全な病院経営の維持に努める。 また、電子カルテ更新を契機として業務プロセスの見直しを進め、業務の効率化と医療の質・生産性の向上を図る。人材確保の面では、定年延長制度を活用して経験豊富な職員の継続雇用を推進するとともに、新たな人材の確保と定着にも努め、安定した医療提供体制の維持・強化を目指す。 【茂庭】高齢化が急速に進む地域において安定的な施設運営を図るため、関係機関との連携強化による利用者の確保、老朽化する施設の整備による安心して利用していただける環境作り、今後、確保が困難となることが予想される介護人材の確保に向けた処遇改善等の取り組みを進めていく。また、生産性の向上・経費縮減を図り、老健施設のモデルとなるよう、地域のニーズを的確に把握しながら経営の健全化に努める。	仙台オープン病院においては、中期経営計画のもと、人材確保や経営健全化に向けて各般の取組を進めているが、近年、財務状況は悪化しており、長期化・恒常化する物価高騰や医療人材不足などの厳しい経営環境に対応していく必要がある。引き続き、仙台医療圏の中核病院としての使命を果たしていくため、新たな医療構想を見据え、中長期的な視点に基づき、持続可能な病院運営を目指して、運営方針の検討や経営改善に取り組まれない。 茂庭台豊齢ホームについては、介護人材確保に努めながら、引き続き稼働率向上による収入の確保や、費用縮減に取り組み、地域に必要とされる老健施設を目指されたい。
----------------------	---	--